

2021年6月4日
令和3年度 第1回長野県総合教育会議

～コロナ禍における子ども貧困について～

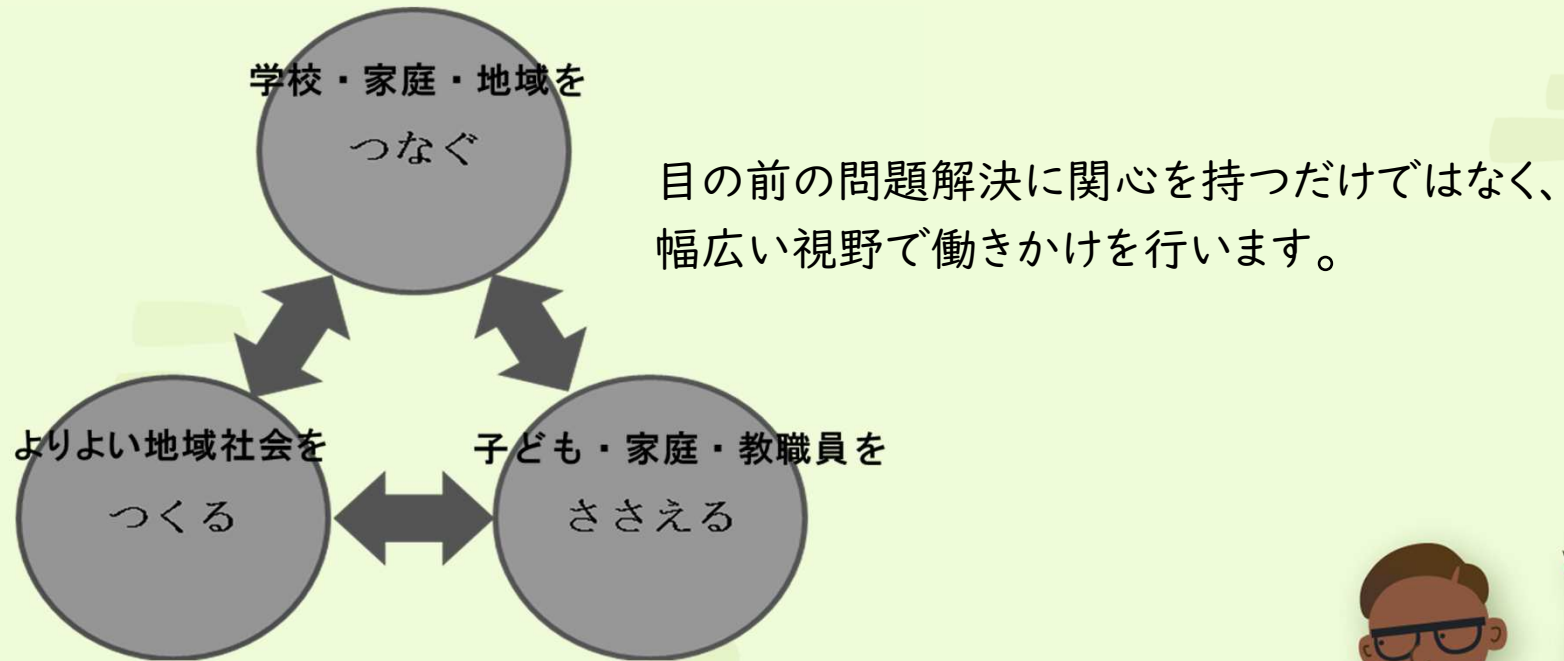
スクールソーシャルワーカー (SSW) の取組

長野県教育委員会 南信教育事務所
スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
社会福祉士 弓田香織



スクールソーシャルワーカー (SSW) です! よろしくお願ひします。

学校を基盤に、関係機関等とも**連携**しながら、学校や地域、家庭や友人関係など本人を取り巻く**環境**の中で、その子が本来持っている**力を発揮**できるように**調整**をするしごとです。



SSWの対応する子ども家庭支援 ～文科省「SSW活用事業」によって期待されている対応課題～

例えば、このような課題で困っている子を援助します。

(文部科学省による分類)

- ① 不登校
- ② いじめ
- ③ 暴力行為
- ④ 児童虐待
- ⑤ 友人関係の問題 (②を除く)
- ⑥ 非行・不良行為 (③を除く)
- ⑦ **家庭環境の問題** (④⑪を除く)
- ⑧ 教職員等との関係の問題
- ⑨ 心身の健康・保健に関する問題
- ⑩ 発達障害等に関する問題
- ⑪ **貧困に関する問題** (⑦を除く) *2015年から追加された項目
- ⑫ その他

ヤングケアラー／シックマザー

多子家庭 家族関係の不和

新型コロナの影響による収入減少 など

「令和2年度SSW実績まとめ」(県教委心の支援課作成) 参照

住環境の不衛生 住居の課題

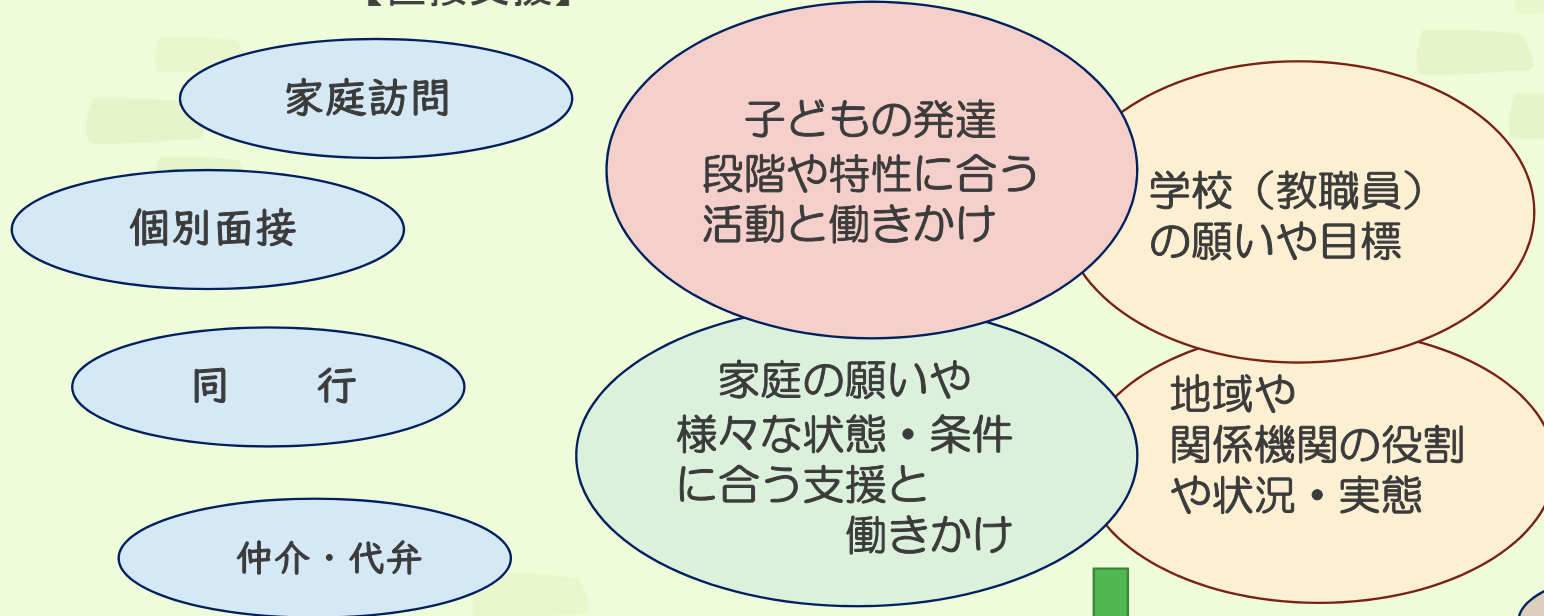


地域の子どもを全数把握できる「学校」をベースに活動しています。
対応する課題は、とても幅が広いです。

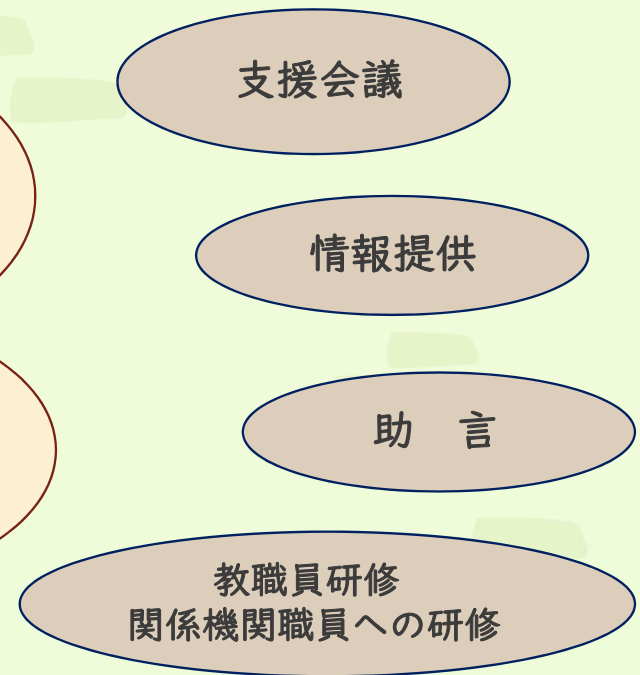


子ども家庭支援におけるSSWの役割と機能

【直接支援】



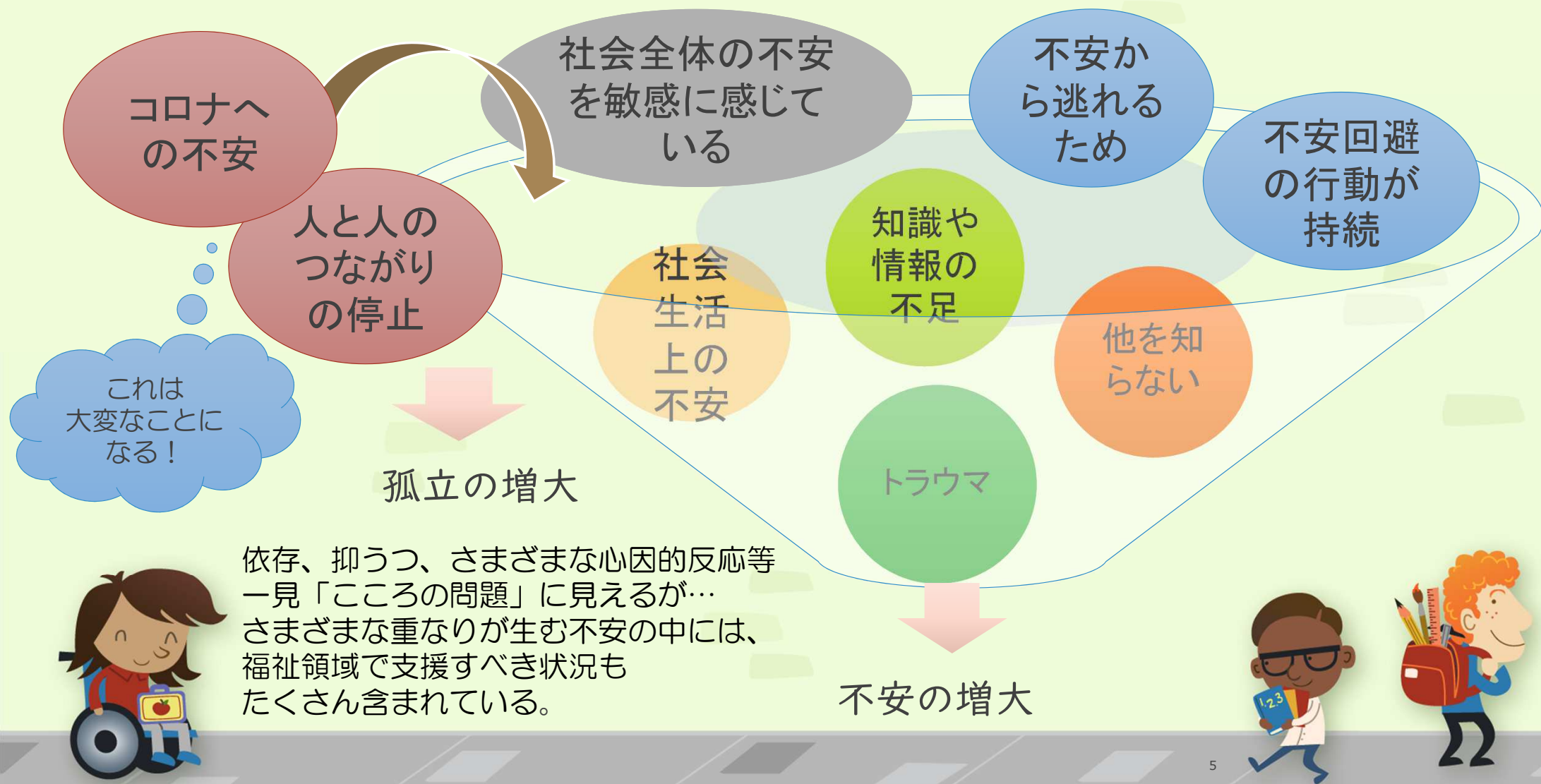
【間接支援】



- ①子どもが持っている力を発揮できるように、子ども本人と家族をエンパワーする
- ②子どもの権利を守るために学校内、そして地域の中のさまざまな人、場所、制度等に適切につなげていく またはすでにつながっているものとのつながり方を調整する



SSWが出会う方々の背景には もともとたくさんの「不安」と「孤立」が隠れている



「相談すること」のハードルが下がりつつある今だからこそ

「令和2年度SSW実績まとめ」（県教委心の支援課作成）から抜粋

SSWが継続的に支援した児童生徒の抱える問題と支援状況

- ⑦ 家庭環境の問題 R1年度 640件 ⇒ R2年度 658件
- ⑪ 貧困に関する問題 R1年度 71件 ⇒ R2年度 77件

「公益社団法人 長野県社会福祉士会 2021年度定時総会議案集」から抜粋

2020年度「児童虐待・DV24時間ホットライン」受付及び処理状況（4～3月）

児童虐待	R1年度 154件 ⇒ R2年度 198件
DV被害	R1年度 43件 ⇒ R2年度 53件
夫婦問題	R1年度 28件 ⇒ R2年度 54件



長野県社会福祉士会は、児童虐待・DV24時間ホットライン業務を公募型プロポーザル方式により 2016年度より受託しています。



SSWが常に大切にしてきた
2つの視点

未然防止

アウトリーチ



アウトリーチ＝「手を伸ばす」（英語では reach out）
潜在的に支援を必要としている人に積極的な支援を行うこと
支援を必要としている状況にありながら、専門的サービスに
結び付きづらい人のもとに専門職が出向き支援をすること
問題解決に向けた動機づけ、対象者の発見やニーズの
掘り起こしを行うこと

私が今 思っていること

子どもの貧困は、
学校において
未然防止が「できない」課題である。

アウトリーチ > 未然防止

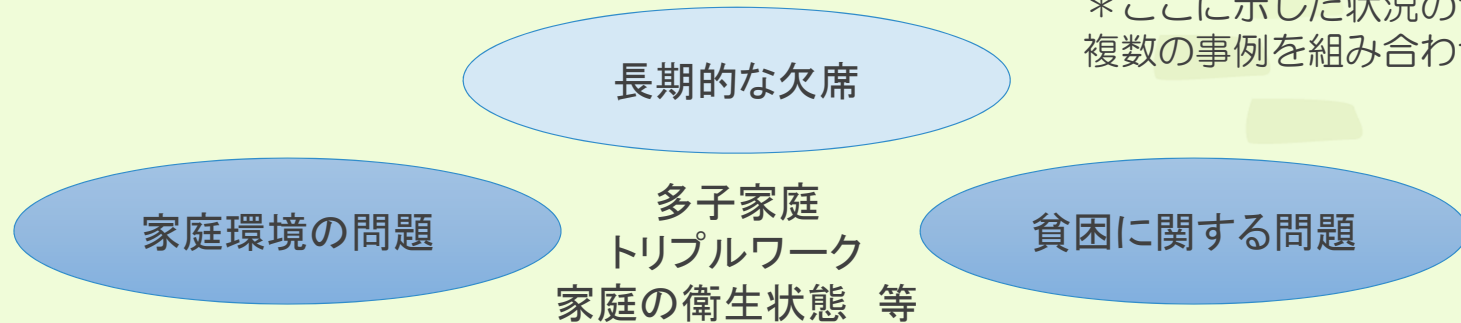
学校は、
子どもの貧困の未然防止において
大切な現場である。

アウトリーチ < 未然防止
⇒貧困の連鎖の防止のカギを握る学校



家庭環境と貧困の問題が重複する状況に SSWはどうかはたらきかけるか

*ここに示した状況の背景や支援経過は、複数の事例を組み合わせ創作したものです。



校内外との支援会議

母との面接

本人との関係づくり

本児の生活リズムの改善の取組

主に校内の相談室での取組み
取組内容はSSWが提案

本児のエンパワー（ボランティア活動）

社会福祉協議会での取組み
SSWが同行して一緒に体験⇒ひとりで活動

母と地区担当保健師のつなぎ

市町村保健師による取組み
SSWが同席して関係づくり

生活福祉資金等貸付事業（教育支援資金）の活用

社会福祉協議会での取組み
SSWが事業の概要の説明と情報整理を行う

高校合格！



むすびにかえて

